

Title	『エソポのハブラス』とペリー番号について
Author(s)	小鹿原, 敏夫
Citation	京都大学國文學論叢 (2018), 39: [1]-[12]
Issue Date	2018-04-01
URL	https://doi.org/10.14989/230789
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

『エソポのハブラス』とペリー番号について

Esopono Fabvlas and Perry numbers

小鹿原敏夫

(1) はじめに

これまでの『エソポのハブラス』(Esopono Fabvlas 1593 以下『エソポ』と略す)とイソップ物語⁽¹⁾に関する先学の研究は、『エソポ』の原典本を特定することに集中しているようにみえる。先学諸氏の間では『エソポ』の原典本がルネッサンス以降のシュタインヘーヴェル本『イソップ集』(初版 1480 年頃)の系列であろうということでは一致している。シュタインヘーヴェル(Heinrich Steinhöwel)は十五世紀に活躍したドイツの人文学者である。しかしながら未だ『エソポ』の原典本は確定されていないようである⁽²⁾。

本稿では『エソポ』の原典本を特定することを目標にするのではなく、多くの作り話から成るイソップ物語というジャンルから、どのように個々の作り話を『エソポ』の編者が選別し、場合によっては改変を加えたのかということを考察してみたい。

(2) 『エソポ』の作り話とペリー番号

古代から中世までの韻文、散文のイソップ物語を広く採取し、これまで最も包括的な分類を試みたのが、ペリー(Ben Edwin Perry 1892~1968)である。その成果は主著『エソピカ』(Perry 1952)に残されている。当初ペリーはギリシア語、ラテン語以外の文献から採取したイソップ物語を含めた『エソピカ』を全三巻あるいは四巻と構想していたようだが、出版されたのは巻一だけである。しかし、この巻一には二十世紀中盤までに発見された古代から中世までのギリシア語、ラテン語で書かれたイソップ物語 725 話が網羅されている。この『エソピカ』でペリーがイソップ物語に与えた分類番号(ペリー番号)は現在でもイソップ物語研究の標準として使用されている。

ペリー番号は【表 1】のように、おおむねイソップ物語が文献に現れた歴史的順序に基づいて付与されている。つまりペリーの分類番号は個々のイソップ物語がどの時代の起源であるかを分析するのに役立つ。

【表 1】【ペリーによるイソップ物語分類番号】

- 1 ~ 471 ギリシア語起源(古代ギリシアとビザンティン)
- 1 ~ 273 原作者不明のギリシア語作り物語集
- 274 ~ 378 バブリアス(Babrius)による作り物語集
- 379 ~ 471 その他のギリシア語文献にみられる作り物語

472～557 ラテン語イソップ物語集ファエドラス (Phaedrus) にみられる作り物語

557～725 中世ラテン語文献にだけみられる作り物語

ペリー番号を『エソポ』の作り物語 70 話にあてはめてみたのが【表 A】である。動物の種類など若干のずれはあるものの『エソポ』の作り話は、ペリー番号で分類されたイソップ物語におおむね当てはまる。たとえばイソップ物語では驢馬であったものが『エソポ』では馬になっていたり（「狗と、馬の事」451）、イソップ物語の山羊が『エソポ』では野牛になったりすることはあるが（「狐と、野牛の事」490）、作り話の内容と教訓は同じであると考えられる。さらに古活字本『伊曾保物語』に共通する作り話があれば、それを掲げる。「中」は中巻、「下」は下巻を示す。古活字本『伊曾保物語』の中巻には作り物語 40 話、下巻には 34 話が収録されている。

【表 A】『エソポ』の作り話（その頁、ペリー番号）

『エソポ』

古活字本『伊曾保物語』

ESOPO GA TCVCV

rimonogatarino nuqigaqi（上巻）

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1.Vôcameto, fiçujino tatoyeno coto (443, Perry155) | 中 11 狼と羊との事 |
| 2.Inuto, fitçujino coto (444, Perry478) | 中 12 犬と羊の事 |
| 3.Inuga nicuuo fucunda coto (445, Perry133) | 中 13 犬、肉の事 |
| 4.Xixito, inuto, vôcameto, fiôtono coto
(446, Perry339) | 中 14 獅子王と羊、牛、野牛の事
中 16 鶴と狼との事 |
| 5.Tçuruto, vôcameno coto (447, Perry156) | 中 18 京と田舎の鼠の事 |
| 6.Nezumino coto (447, Perry352) | 中 20 鷺と蝸牛の事 |
| 7.Vaxito, catatçuburino coto (449, Perry490) | 中 21 鳥と狐の事 |
| 8.Carasuto, qiçuneno coto (450, Perry124) | 中 22 馬と犬の事 |
| 9.Yenocoto, vmano coto (451, Perry91) | 中 23 獅子王と鼠の事 |
| 10.Xixito, nezumino coto (451, Perry150) | 中 24 燕と諸鳥の事 |
| 11.Tçubameto, xochôno coto (453, Perry39) | |
| 12.Esopo Athenasno fitobitoni
nobetaru tatoyeno coto (453, Perry44) | 中 25 蛙が主君を望む事 |
| 13.Tobito, fatono coto (455, Perry486) | 中 26 鳶と鳩の事 |
| 14.Vôcameto, butano coto (456, Perry547) | 中 27 鳥と孔雀の事 |
| 15.Cujacuto, carasuno coto (456, Perry472) | 中 28 蠅と蟻の事 |
| 16.Faito, arino coto (457, Perry521) | 中 30 馬と獅子王の事 |
| 17.Xixito, vmano coto (458, Perry187) | 中 32 馬と驢馬の事 |
| 18.Vmato, robano coto (459, Perry565) | 中 33 鳥けだものと戦ひの事 |
| 19.Torito, qedamonono coto (460, Perry566) | 中 34 かのしゝの事 |
| 20.Xicano coto (462, Perry74) | 中 36 腹と五体の事 |
| 21.Farato, xixi roconno coto (463, Perry130) | 中 38 狼とパストルの事 |

- 22.Pastor to, vòcameno coto (464, Perry22) 下 01 蟻と蟬の事
 23.Xemito, aritono coto (465, Perry373) 下 06 狼と狐の事
 24.Vòcameto, qitçuneno coto (466, Perry625, 258) 下 08 鳩と蟻との事
 25.Fatoto, arino coto (469, Perry235)

ESOPOGATCV

curimonogatarino guequan (下巻)

- 1.Niuatorito, guegiono coto (469, Perry55)
 2.Nininno chiinno coto (470, Perry65)
 3.Xuroto, taqeno coto (471, Perry70)
 4.Daicaito, yajinno coto (472, Perry207)
 5.Sumitaqito, xendacuninno coto (473, Perry29)
 6.Biôjato, cusuxino coto (473, Perry170)
 7.Gintôno caifuqino coto (474, Perry370)
 8.Fauato, cono coto (475, Perry200) 下 03 狐と庭鳥の事
 9.Niuatorito, inuno coto (476, Perry252)
 10.Xixivôto, cumatono coto (477, Perry147)
 11.Tonyocuna monono coto (478, Perry225)
 12.Robato, qitçuneno coto (479, Perry188)
 13.Vmato, robotono coto (480, Perry181)
 14.Ninin dôdô xite yuqu coto (481, Perry67)
 15.Yaguiûto, vòcameno coto (481, Perry97)
 16.Robato, xixino coto (482, Perry82)
 17.Mitçutçucurino coto (483, Perry72)
 18.Carasuto, fatono coto (483, Perry129)
 19.Faito, xixivôno coto (484, Perry255)
 20.Nusubitoto, inuno coto (484, Perry403)
 21.Voita inuno coto (485, Perry532)
 22.Mamuxito, cogatanano coto (486, Perry93)
 23.Yamato, somabitono coto (486, Perry302)
 24.Qitçuneto, itachino coto (487, Perry24)
 25.Cameto, vaxino coto (487, Perry230)
 26.Guiojinno coto (488, Perry13)
 27.Yaguiûno co to vòcameno coto (489, Perry572)
 28.Varambeno fitçujiuo cõta coto (489, Perry210)
 29.Vaxito, carasuno coto (490, Perry2) 下 12 鷺と鳥の事
 30.Qitcuneto, yaguiûno coto (490, Perry9) 下 14 野牛と狐の事

- 31.Fiacuxôto, codomono coto (491, Perry53)
 32.Vonagadorito, cujacuno coto (492, Perry219)
 33.Xicato, cono coto (493, Perry351)
 34.Catamena xicano coto (494, Perry75)
 35.Xicato, budôno coto (494, Perry77)
 36.Canito, febino coto (495, Perry196)
 37.Nhoninto, vôzaqueuo nomu vottono coto (496, Perry246)
 38.Pastorno coto (497, Perry52)
 39.Robato, qitçuneno coto (497, Perry191)
 40.Vôcameto, couo motta vonnano coto (498, Perry158)
 41.Cairuto, nezumino coto (499, Perry384) 中9イソボ臨終におみて蛙鼠のたとへを云ひて終る事
 42.Aru toxiyotta xixiuôno coto (500, Perry481)
 43.Qitçuneto, vôcameno coto (500, Perry568)
 44.Rôjinno coto (501, Perry60)
 45.Xixito, qitçuneno coto (502, Perry142)

【表 A】を【表 1】にあてはめてみると【表 2】のようになる。

【表 2】『エンボ』における作り物語のペリー分類番号の分布

ペリー番号	作り話の数
1 ~ 273	50 話 (上巻 14 話、下巻 36 話)
274 ~ 378	6 話 (上巻 3 話、下巻 3 話)
379 ~ 471	2 話 (上巻 0 話、下巻 2 話)
472 ~ 557	8 話 (上巻 6 話、下巻 2 話)
557 ~ 725	5 話 (上巻 3 話、下巻 2 話)
計	71 話

付記：「狼と、狐の事」(466)は Perry258 と Perry625 が合体したものと考えられるので (1 ~ 273) と (557 ~ 725) のどちらにも含まれるとした。そのため総計が作り話の数 (70) よりも一話多く 71 話になった。

【表 2】は『エンボ』の作り物語が、ペリー番号にあるすべての時代のイソップ物語を網羅していることを示している。このことは『エンボ』の原典本がシュタインヘーヴェル本のようなルネッサンス期以降の編纂本であったという説と矛盾しない。

また【表 A】にみられるように、古活字本『伊曾保物語』下巻と『エンボ』下巻は共通した作り話が極端に少ない。そのため『エンボ』下巻は上巻とは異なった原典本を持つという意見がある (遠藤 1986:11)。確かに【表 2】をみると下巻の方がイソップ物語の核となる古層のペリー番号 (1 ~ 273) の割合が上巻よりも高い (上巻 56%、下巻 80%)。

しかし『エソポ』下巻には 274 番以降のペリー番号もバランスよく含まれている。したがって下巻の原典本が上巻のそれとは別であったとしても、それは上巻と同様、ルネッサンス以降に成立したイソップ物語編纂本であったことは変わらないだろう。

上巻 24 番 *Vôcameto, qitçuneno coto*（「狼と、狐の事」466, Perry625, 258）は『エソポ』の中で最も長い作り話である。

同話の前半において狐は魚を採る手段だといって狼の尾に桶を結びつける。そして悟られないように石を桶に放り込み、狼を動けなくし村人に狼を襲わせ、狼は尾を切られる。

後半では、尾をなくした狼が、病弱の獅子王に狐の生皮を剥いで身にまとう治療法を推奨する。しかし一枚上手の狐は獅子王に、より確かな治療は尾の切れた珍しい狼を見つけ、その生皮を剥いで身にまとうことであると主張する。そこにたまたま通りかかった尾のない狼は、たちまち獅子王に生皮を剥がれるはめになるというものである。最後に、人を中傷する者はその報いを受けるという教訓によって締めくくられている。

アーネスト・サトウは、「（この作り物語の）日本語訳は狼が尾をなくすという話で始まり、イソップ物語のラテン語原文につながる」と注釈し、狼が尾をなくす前半部分はキリシタン版編者の創作であるかのように解した⁽³⁾。しかしこの作り話の前半に当てはまる「狼の漁師」というイソップ物語がペリー番号 625 話にある。「尻尾の釣」としても知られる「狼の漁師」（Perry625）では、狐が狼を騙して、狼の尾を使って魚釣りをさせ、尾を凍りつかせることで動けなくさせる。そしてさらに村人を呼びつけ、散々狼を打擲させ、狼の尾は切断されるのである。『エソポ』では、狐が狼の尾に桶をくりつけ、そこに石を投げこむことで動けなくさせたという相違はあるものの、この二つは同話とみてよいと思われる。そして後半は明らかに「病気の獅子王」（Perry258）が原話である。『エソポ』の編者は二つの異なる作り話を共通項「尾の切れた狼」を使って巧妙に合体させたと思われる。

しかしながら、前半では明らかに狼が狐の悪だくみで尾をなくしたことを勘案すると、教訓「忠言をこそえ云はずとも、せめて讒言を吐くな」は後半（「病気の獅子王」）にのみあてはまる。これは二つの作り話（Perry625, 258）を連結させた際に教訓を修正しなかったためであろう。なお古活字版『伊曾保』にも同様に二つの作り話を合体させた「狼と狐の事」があり、その教訓も『エソポ』のそれと同じである。

(3) 『エソポ』における主題の分類について

ペリーが成立順に分類したイソップ物語を、さらに 70 の主題によって分類したのが、ギブス (Laura Gibbs) である。ギブスはペリー番号にある作り話のうち 600 話をその主題によって分類した (Gibbs 2002)。このイソップ物語の主題分類は「奴隷と主人に関する作り話」、「動物の王様に関する作り話」など具体的な主題を表題にしている。ギブスの主題による分類は、まだペリー番号のように広く定着しているわけではないが、現代

の西洋古典学の専門家がどのように個々のイソップ物語の主題を把握しているか教えてくれる。

筆者は【表 A】にある『エソポ』の作り物語 70 話が、ギブスの作成した主題による分類のどこにあるかを探した。それが【表 B】である。【表 A】ではローマ字表記だったが【表 B】では内容を把握しやすいように国字表記にした。

【表 B】『エソポのハブラス』の作り話の主題分析

凡例：22.裁判所と判事：「犬と、羊の事」（444, Perry478）

これが意味するのは『エソポのハブラス』の作り話「犬と、羊の事」は同書の 444 頁に掲載されている。そしてその主題はギブスの分類によると「裁判所と判事」に関する作り話であり、ペリー番号では第 478 話に相当するということである。また「1.奴隷と主人」のように主題名の後、空欄になっている場合は、そのような主題を持つ作り話は『エソポ』に採用されなかったということである。

1. 奴隷と主人

1. 動物の王様：「獅子と、犬と、狼と、豹との事」（446, Perry339）、「狼と、狐の事」（466, Perry625, 258）、「獅子と、狐の事」（502, Perry142）

3. 王様を選ぶ：「エソポ、アテナスの人々に述べたる譬への事」（453, Perry44）、「尾長鳥と、孔雀の事」（492, Perry219）、「鳶と、鳩の事」（455, Perry486）

4. 群れ

5. 自滅：「山と、仙人の事」（486, Perry302）

6. 不釣り合いな組合せ：「鶴と、狼の事」（447, Perry156）

7. 役に立たない味方

8. 団結：「腹と、四肢六根の事」（463, Perry130）、「獅子王と、熊との事」（477, Perry147）、「馬と、驢馬との事」（480, Perry181）

9. 友情：「獅子と、鼠の事」（451, Perry150）、「鳩と、蟻の事」（469, Perry235）

10. 感謝と忘恩：「鹿と、葡萄の事」（494, Perry77）、「蜜作りの事」（483, Perry72）

11. 偽の友達：「二人の知音の事」（470, Perry65）、「二人同道して行く事」（481, Perry67）、「盗人と、犬の事」（484, Perry403）

12. 偽の招待

13. お世辞と侮辱：「鳥と、狐の事」（450, Perry124）

14. 不誠実な約束と嘘：「鷲と、蝸牛の事」（449, Perry490）、「狐と、野牛の事」（490, Perry9）

15. 無慈悲：「蝉と、蟻との事」（465, Perry373）、「陣頭の貝吹きとの事」（474, Perry370）

16. 裏切りと悪辣さ：「狼と、羊の譬への事」（443, Perry155）

17. 悪辣な者が罰せられる：「蟹と、蛇の事」（495, Perry196）、「蛙と、鼠の事」（499, Perry384）

18. ペテン師が騙される：「童の羊を飼うた事」（489, Perry210）、「鶏と、犬の事」（476, Perry252）、「狐と、狼の事」（500, Perry568）

- 19.報復
- 20.嫉妬と意地悪
- 21.正義
- 22.裁判所と判事：「犬と、羊の事」(444, Perry478)
- 23.揉め事と議論
- 24.動物の間の議論：「蠅と、蟻の事」(457, Perry521)
- 25.植物の間の議論：「棕櫚と、竹の事」(471, Perry70)
- 26.慢心
- 27.自分中心の動物
- 28.自己満足の強い動物：「驢馬と、獅子の事」(482, Perry82)
- 29.負け犬：「蠅と、獅子王の事」(484, Perry255)
- 30.恐怖：「鹿と、子の事」(493, Perry351)
- 31.自己に関する思い違い
- 32.投影と錯覚：「犬が肉を含んだ事」(445, Perry133)、「鹿の事」(462, Perry74)
- 33.紛らわしい様相：「大海と、野人の事」(472, Perry207)
- 34.馬鹿げた期待：「狼と、子を持った女の事」(498, Perry158)
- 35.好機会：「パストルの事」(497, Perry52)
- 36.自己の真の姿と外貌：「蝮と、小刀の事」(486, Perry93)、「野牛の子と、狼の事」(489, Perry572)
- 37.偽医者：「狼と、豚の事」(456, Perry547)、「獅子と、馬の事」(458, Perry187)
- 38.偽の預言者
- 39.変装と見栄を張る事：「孔雀と、鳥の事」(456, Perry472)、「驢馬と、狐の事」(479, Perry188)、「鳥と、鳩の事」(483, Perry129)
- 40.場違いな動物：「亀と、鷺の事」(487, Perry230)
- 41.馬鹿げた物真似：「狗と、馬の事」(451, Perry91)、「驢馬と、狐の事」(497, Perry191)、「鷺と、鳥の事」(490, Perry2)
- 42.自分の本来の性質を変えようとする：「野牛と、狼の事」(481, Perry97)
- 43.曖昧な動物：「鳥と、獣の事」(460, Perry566)
- 44.動物の偽善性
- 45.人間の偽善性：「パストルと、狼の事」(464, Perry22)、「老いた犬の事」(485, Perry532)
- 46.自己の利益
- 47.財産と富：「鼠の事」(447, Perry352)、「貪欲な者の事」(478, Perry225)
- 48.人生の浮き沈み：「馬と、驢馬の事」(459, Perry565)、「漁人の事」(488, Perry13)
- 49.哀れな末路：「或る年寄った獅子王の事」(500, Perry481)
- 50.馬鹿げた計画：「鶏と、下女の事」(469, Perry55)
- 51.頭の悪い動物と良心的な助言：「狐と、鼯の事」(487, Perry24)
- 52.動物の知恵
- 53.意外な結末：「片目な鹿の事」(494, Perry75)

- 54.運命と富
- 55.神々と教訓
- 56.神々と愚者たち：「老人の事」（501, Perry60）
- 57.愚者に助言をする：「燕と、諸鳥の事」（453, Perry39）
- 58.子供を育てる：「母と、子の事」（475, Perry200）、「百姓と、子どもの事」（491, Perry53）
- 59.動物の起源論
- 60.人間の起源論
- 61.寓喩
- 62.矛盾：「炭焼と、洗濯人の事」（473, Perry29）
- 63.悪口
- 64.笑い話：「女人と、大酒を飲む夫の事」（496, Perry246）
- 65.スカトロロジーに関する笑い話
- 66.女性に関する笑い話
- 67.禿頭に関する笑い話
- 68.医者に関する笑い話：「病者と、医者 of 事」（473, Perry170）
- 69.ローマ人に関する逸話
- 70.駄洒落、地口

(4) 『エソポ』編者によるイソップ物語の穿鑿について

『エソポ』の巻頭には「読誦の人へ対して書す」と題された前書きがある。そこではイソップ物語は樹木に喩えられ、その樹には益無き枝葉も多いが、良き実もあることから、「この物語をラチンより日本の言葉に和げ、いろいろの穿鑿の後、板に開かるなり」と述べられている。この「穿鑿」⁽⁴⁾のなかにはイソップ物語を日常会話的な日本語の学習教材に書き改めるという配慮があったろう。しかしそれ以外にもキリシタン版としてふさわしいイソップ物語をつくるという配慮も含まれていたに違いない。『エソポ』の作り話の部分ではないが、「エソポの生涯の物語略」のなかでもキリシタンの教義にとって重要な「御大切」と「自由」という言葉を挿話のなかで用いている。エソポの口からそれらの価値を称揚することで、教化に利用としようとしたとみられる⁽⁵⁾。

『エソポ』の作り話において、イソップ物語の中からキリシタンの教義に抵触する主題や、あまりに低俗な作り話は避けられていることが【表 B】から容易に推察される。

『エソポ』の編者が加えた「穿鑿」のなかにはどのような配慮が働いたのかを推察し、次に列挙してみる。

- (i) キリスト教の創生教義とは異なるギリシア・ローマの神話を反映した 59.動物の起源論、60.人間の起源論にある作り話は『エソポ』に採用されていない。前者には「ゼウスと亀」、後者には「ゼウスとプロメテウス」の様な作り話がある。

○ゼウスが婚礼の席に全ての動物を招待したが、亀だけが家に籠って現れなかった。ゼウスがその理由を尋ねると、亀は自分の家よりも素晴らしいものはないからと答えた。これに怒ったゼウスはそれならば常に自分の家を背負うようにと亀に甲羅を与えた（「ゼウスと亀」 Perry106）

○ゼウスの命令でプロメテウスは動物と人間を創造したが、ゼウスが見たところ動物の数が人間に対して多すぎたのでプロメテウスに動物の一部を人間に変身させるようにと命じた。プロメテウスは言われたとおりにした。そのせいで人間の皮をかぶった動物が存在するのである（「ゼウスとプロメテウス」 Perry240）

- (ii) ギブスの分類 63 ～ 70 にみられる作り話はその多くが大人の「笑い話」である。艶笑話もある。しかし『エソポ』がこの分野から採用している「女人と、大酒を飲むこと」（Perry246）と「病者と、医者との事」（Perry170）はその中では最も穏当な笑い話である。この分野の作り話は往々にしてもっと野卑で下品である。排除された作り話の例を挙げる。

○イソップの主人がイソップに「どうして人は自分の排泄物を便所で時々眺めるのだろうか」と尋ねた。イソップが答えた「昔、ある王子があらゆる美食にふけて、その結果多くの時間を便所で過ごすことにもなり、そして彼はうっかり自分の内臓を排泄してしまったのです。それで人々は同じ間違いをしないかと自分の排泄物を眺めるようになったのです。しかし、ご主人が心配されるのには及びません。なぜならご主人は「内臓」（古代ギリシアでは知性の意味）をお持ちではないのですから」（Perry380）

- (iii) 15.無慈悲に関する作り話からは「蟬と、蟻との事」（Perry373）、「陣頭の貝吹きとの事」（Perry370）が採用されている。後者のイソップ物語では、戦の後、敵の武器を焼却しているときに、陣頭で吹かれるラッパが、自分は単なる楽器で非はないと訴えるが、無慈悲に焼却処分される。『エソポ』でも同様に陣頭の貝吹きは、自ら武器を取ったわけではないが、敵の士気を鼓舞したということで無慈悲にも死刑に処せられる。

イソップ物語の「蟬と、蟻との事」では夏の間、歌ってばかりいて食物を蓄えなかった蟬が、冬になって食べ物を分けてくれと蟻に乞う。蟻はそれに対し「冬の間は、踊って暮らせばよかろう」と無慈悲に突き放す。しかし『エソポ』では、蟻は蟬を散々に嘲るものの、最後に「少しの食を取らせて戻いた」という慈悲のある話に変えられている。日本イエズス会が出版した教義書『どちりいなきりしたん』（1592）は慈善所作の最初に「飢えたる者に食を与える事」を挙げている。「蟬と、蟻との事」ではこのキリシタンの教義との一致を図ったのではないかと考えられる。

なおこの作り話「蟻と蟬の事」は古活字版『伊曾保』にも含まれているが、古活字版では、蟻は蟬に施しを全く与えないで穴に帰る。つまりイソップの作り物語（Perry373）に忠実な結末になっている。

(iv) 『エソポ』の「蛙と、鼠の事」(499, Perry384)の主題は原話と異なる。イソップでは悪辣な蛙が罰せられる話である。蛙は泳げない鼠を説得してお互いを紐で結びつけ水のなかに入る。しかし蛙は鼠を裏切り溺れさせる。しかし鼠の死体が水面に浮くと、すかさず鳶がその鼠の死体を拾い上げた。すると紐で結ばれた水中の蛙も一緒に捕獲され、どちらも鳶の餌食になったという。そしてその教訓は人に害を与える者は自分もそのことで滅びることが多いというものである（Perry384）。

しかし『エソポ』では蛙と鼠が領土争いで戦をしていたところ、蛙があまりに大声を上げて戦ったので、鳶がそれに気づき、空から蛙と鼠の両方の軍勢を餌食にしたということになっている。そして同じ国の者同士が争っていると他国の者にどちらも滅ぼされることがあるという教訓にしている。

この作り話は古活字版『伊曾保』では「伊曾保臨終におみて鼠蛙のたとへをいひて終る事」というイソップの伝記の部分に含まれている。その内容はイソップの作り話（Perry384）に近く、蛙は鼠の足を紐で結んで溺死させたが、自分も大きな敵（鳶）によって滅ぼされてしまったという作り話になっている。先に原典に近い『伊曾保』の文語訳があり、これを口語訳にする時に『エソポ』では改変を加えたことを示唆しているとみられる。蛙の親友（鼠）に対する裏切り行為の後味が悪いので喧嘩両成敗の内容に書き換えたのであろうか。

(5) おわりに

イソップ物語の世界では往々にして邪悪な者が善良な者を騙して利益を得る。また自分の本来の姿に欺いて振る舞えば、手痛いしっぺ返しをうけるという話も多い。そして失敗した者や弱者に対し、安易に慈悲をかけることには危険が伴うことを繰り返し教える。議論好きのギリシア人やローマ人にとっては、キリスト教が説くように、善良な者が（この世であれ、あの世であれ）必ず報われるという作り話よりも、過酷ではあれ現実的な教訓を持つ作り話が求められたことが想像に難くない。それゆえ『エソポ』の編者は前書きにあるように、イソップの作り話を隣人愛や神の恩寵といったキリシタンの教義と大きく矛盾させないように「いろいろの穿鑿」が必要であった。しかし、逆にイソップの作り話をすべてキリスト教的に改変し、あらゆる毒気を抜いてしまうと物語の面白さが消えさせてしまっただろう。その点において『エソポ』の編者は絶妙のバランスをとることに腐心したと言えるのではないだろうか。たとえばイソップ物語では同じ「慈悲のない話」に分類される「蟬と、蟻との事」と「貝吹きの事」のうち、前者を「慈悲のある話」に改変したものの、後者は「慈悲のない話」のままにしているのがその証左ではないだろうか。

[注]

(1) わが国では英訳 *Aesop's Fables* 起源の「イソップ物語」というジャンル名が定着していると思われるので、本稿でもジャンル名として採用する。イソップ物語はキリスト教を母体として生まれたものではなく、キリスト教が誕生するはるかに古い紀元前八世紀にギリシアで生まれたとされ、その後ローマの時代、中世、ルネッサンス期のヨーロッパにかけて連続と新しい作り物語が紡がれたものである。そして最終的に十七世紀のフランスはラ・フォンテーヌの『寓話』(1668~1694)によって一応の完成を見たと言われる西洋文学の大きなジャンルである。イソップ物語の鼻祖は元奴隷で知恵者のイソップとされるが、実在したかどうかははっきりしない。しかし前五世紀の歴史家ヘロドトスはイソップを実在した人物として紹介している(『歴史』巻2:134章)。またヘロドトスとほぼ同時代のアリストファネスは『蜂』や『鳥』などの喜劇の中でイソップ物語を多く引用したことで知られている。動物や植物が会話をするという特徴はあるが、イソップ物語の厳密な定義は意外に難しい。ペリーは著書『エソピカ』(Perry 1952)でイソップ的な(Aesopic)物語とは何かということを論じている。それによると「イソップが語った作り物語」と物語の中に明記されていても次の三条件を満たさないと「イソップ物語」のジャンルに含まれないとしている(Perry 1952: ix)。

①明らかに虚構の話であること。

②ある出来事や行為が、過去において一度だけ、ある特定の登場人物(動物、植物を含む)に起こること。

③この作り物語は教訓を伝えるために語られること。

その教訓とは多くの場合、勧善懲悪ではない。なおペリーの『エソピカ』(Perry 1952)は確かに記念碑的な労作であるが、同書は英語で書かれた前書きを除けば、全編、本文から注釈にいたるまで古典ギリシア語、あるいはラテン語でのみ記されていて、西洋古典学に造詣が深いわけではない(筆者を含む)読者には非常に使いにくい。しかしながらペリーの『パブリウスとフェアドルス』(Perry 1965)の巻末には、英語の梗概を付したペリー番号表があり、これらは『エソポ』の作り話分類の大きな助けとなる。またローラ・ギブスの『イソップ物語』(Gibbs 2002)はイソップ物語の最新の英語訳というだけでなく、ペリーの分類番号を個々の作り物語に付与し、さらに作り物語の類型を70種に分類していることがペリーの『エソピカ』(Perry 1952)の案内書として役に立つ。

(2) 『エソポ』の原典本を特定しようとする代表的な試みには、小堀(1978a, 1978b)、遠藤(1983, 1984, 1986)がある。

(3) The Japanese version begins with the story of the manner in which the wolf lost his tail, and then goes on as in the original Latin.

サトウはパリで1545年に出版されたラテン語版イソップ物語と対照し、『エソポ』の70の作り話それぞれについて原話に当ると思われるラテン語表題を列記している(Satou 1888:13~15)。この「狼と、狐の事」には *Leo et Lupus* (獅子と狼 Perry258) を当てている。

(4) 日葡辞書(1603)の語訳によれば、「穿鑿」とは十分に調査し吟味することである。

(5) 『エソポ』所収の「エソポが生涯の物語略」のなかで御大切は「エソポ夫婦仲直し」(423)、自

由は「エソボとサモの住民」(427)においてその高い価値が強調されている。

〔参考文献〕

- 遠藤 (1983) : 『邦訳二種伊曾保物語の原典的研究』(正編) 遠藤潤一 風間書房 1983
遠藤 (1984) : 『邦訳二種伊曾保物語の原典的研究』(続編) 遠藤潤一 風間書房 1984
遠藤 (1986) : 『邦訳二種伊曾保物語の原典的研究』(総編) 遠藤潤一 風間書房 1986
大塚 (1971) : 『キリシタン版エソボ物語 付 古活字本伊曾保物語』大塚光信 角川文庫 1971
小堀 (1978a) : 『伊曾保物語』原本考(上・下) 小堀桂一郎 岩波『文学』1978.10.12
小堀 (1978b) : 『イソップ寓話』小堀桂一郎 中公新書 523 1978
Gibbs (2002) : *Aesop's Fables, A new translation by Laura Gibbs* Oxford University Press 2002
Perry (1952) : *Aesopica Vol.1* Ben.E.Perry University of Illinois Press 1952
Perry (1965) : *Babrius and Phaedrus, Translated by Ben E.Perry* Loeb Classical Library 1965
Satow (1888) : *The Jesuit Mission Press in Japan* by Earnest Mason Satow, Privately printed 1888

(おがはら としお・京都女子大学非常勤講師)